

〔さとうきび〕

1 作付の概要

さとうきびの2018/2019年における鹿児島県と沖縄県の両県合計の収穫面積は21,002haで、前年より1,105ha減少した。

県別にみると、鹿児島県の収穫面積は9,436haで、前年より441haの減少となった。作型の構成は、株出しが72.0%（前年71.9%）で前年並み、夏植えが9.7%（同11.2%）でやや減少、春植えが18.3%（同16.8%）で前年よりやや増加した。品種構成は、NiF8が全体の32.3%（前年37.9%）、次いでNi23が18.5%（同21.4%）、Ni22は12.5%（同13.9%）だが、それぞれ前年より減少し、NiTn18が27.3%（同16.6%）で前年より増加している。

島別にみると、種子島では、株出しが67.2%で、品種はNiF8が55.3%、NiTn18が27.3%、Ni22が16.0%となっている。奄美大島では、株出しが73.2%で、品種はNi22が21.2%、Ni23が19.2%、Ni17が13.7%となっている。喜界島では、株出しが70.8%で、品種はNi23が30.2%、NiF8が15.3%、KN00-114が3.6%となっている。徳之島では、株出しが75.0%で、品種はNiF8が29.4%、Ni23が27.1%、KN00-114が5.2%となっている。沖永良部島では、株出しが70.7%で、品種はNiF8が38.5%、Ni22が34.9%となっている。与論島では、株出しが80.5%で、品種はNi23が65.0%を占め、NiF8が9.5%となっている。

沖縄県の収穫面積は13,145haで、前年より664ha減少した。作型の構成は、夏植えが23.8%（前年29.1%）、春植えが11.6%（同8.8%）、株出しが64.6%（同62.1%）で、全地域において夏植えが減少したことで面積減となった。品種構成は、Ni27が36.8%（前年36.6%）と最も多く、NiH25が9.0%（同10.0%）、Ni21が7.9%（同8.9%）、NiF8、Ni22そしてNi28がそれぞれ5%程度で、前年同様Ni27の作付が多い。

地域別にみると、沖縄地域（周辺離島を含む）では、株出しが74.8%で、品種はNi27が16.8%、次いでNi21やNi28、そしてRK97-14が増加してきている。宮古地域では、株出しが58.8%と前年並みで、品種はNi27が61.0%と大半を占めるが、RK97-14が6.5%に増加している。八重山地域では、株出しが49.8%と前年より約10%増加し、品種はNiH25が31.2%で前年よりやや減少し、Ni27が約10%増加し30.6%となっている。

2 作柄の状況

鹿児島県では、9月末の台風等の影響を受けたことから、単収は4,797kg/10aで対前年比89.7%、収穫量は452,623tで対前年比85.7%となり、2年連続で前年を下回った。甘蔗糖度は13.08度と前年値12.39度を上回ったが、平年値（13.49度）を下回った。

沖縄県では、沖縄及び宮古地域で台風24、25号の影響を強く受けたが、増産対策等によって単収は5,649kg/10aで対前年比101.5%と増収傾向を維持した。しかし、収穫量は面積減により742,584tで対前年比96.6%であった。甘蔗糖度は14.0度と前年並みであった。

2018/2019年期の鹿児島、沖縄両県のさとうきび生産実績

県別	年次	農家戸数 (戸)	収穫面積 (ha)	単位収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	甘蔗糖度 (%)	産糖量 ²⁾ (t)	歩留り ³⁾ (%)
鹿児島県	2018/2019年 期 (対前年比)	7,222 (95.9)	9,436 (95.5)	4,797 (89.7)	452,623 (85.7)	13.08 (105.6)	51,764 (91.3)	11.43 (99.2)
沖縄県	2018/2019年 期 (対前年比)	13,780 (96.6)	13,145 (95.2)	5,649 (101.5)	742,584 (96.6)	14.0 (100.7)	83,999 (96.4)	11.16 (99.8)
両県合計	2018/2019年 期 (対前年比)	21,002 (96.3)	22,581 (95.3)	5,223 (95.7)	1,195,207 (92.2)	- -	135,763 (94.4)	11.30 (99.5)

1) 表中の数値は、平成30/令和元年度のさとうきび及び甘しゅ糖生産実績(鹿児島県、沖縄県)より抜粋、編集。

2) 含蜜糖を含む生産量。

3) 分蜜糖のみの歩留り。